

**京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書**

平成20年7月20日

財団法人京都大学教育研究振興財団
会 長 辻 井 昭 雄 様

所属部局 工学研究科

職 名 教 授

氏 名 小 林 潔 司

事業区分	平成20年度・シンポジウム等開催助成		
事業内容	第11回ウデバラシンポジウム2008「グローバルな経済統合下における空間的分散生産及びネットワークに関するガバナンス」		
開催期間	平成20年5月15日 ~ 平成20年5月17日		
開催場所	京都市国際交流会館		
成果の概要	タイトルは「成果の概要/報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 無 有(プロシーディングス)		
会計報告	事業に要した経費総額	(飲食・宴会経費を除いた額)	2,847,327 円
	うち当財団からの助成額		1,500,000 円
	その他の資金の出所	(機関や資金の名称) 科学研究費補助金, 参加費	
	経費の内訳と助成金の使途について		
	費 目	金 額 (円)	財団助成充当額 (円)
	会場費	462,500	462,500
	海外招待旅費	1,634,253	921,663
	国内招待旅費	143,280	0
	消耗品費	234,870	91,837
	プロシーディング(USBメモリ)製作	324,000	0
雑費(振込手数料など)	48,420	24,000	
合 計		1,500,000	

平成20年度京都大学教育研究振興財団シンポジウム等開催助成 成果の概要

工学研究科 教授
小林潔司

本シンポジウム The 11th Uddevalla Symposium 2008 on "Spatially Dispersed Production and Network Governance"は 1998 年以降毎年スウェーデンを中心として開催されている地域科学と起業都市に関する国際会議の 11 回目にあたる。これまでの 10 回にわたるシンポジウムにおいて、都市の発展に寄与する理論的・実証的・政策的な数多くの有用な研究討議が行われてきた。11 回目のシンポジウムは初めてアジアで開催されたものである。京都大学大学院工学研究科都市社会工学専攻、経営管理大学院、University West の共催、Jönköping International Business School や George Mason University をはじめとする 7 つの機関による後援によって、本シンポジウムが遂行された。

5 月 15 日から 17 日までの 3 日間にわたり、スウェーデン、アメリカなどを中心に計 13 カ国から総勢 100 名近くの参加者を得て、京都市国際交流会館において盛大に行われた。シンポジウムの構成としては、午前中に関連する分野の第一人者 9 名による基調講演、午後には一般参加者の発表による平行セッションがとりおこなわれた。全体を通じて、驚異的な成長を見せる中国をはじめとしたアジア諸国における地域科学に関する重要な課題が議論された。東アジア地域をはじめとして世界の各地においてグローバリゼーションが急速に進展するなか、知識ネットワークの成長が都市に及ぼす影響について、理論的、実証的に議論された。

成生達彦・京都大学経営管理大学院大学院長による開会あいさつに引き続いて、午前中に行われた基調講演者とその発表タイトルは以下の通りである。

- President, Prof. Thomas Andersson, Jönköping International Business School, "Changing Governance in the Knowledge Economy"
- Prof. Ulrich Blum, Institute for Economic Research, Halle, "Race to the Market: Can Standards Survive the Acceleration of Innovation and Product Life Cycles?"
- Prof. Börje Johansson, Royal Institute of Technology, "Impacts of R&D Efforts by Firms on Profit, Productivity and New Product Sales – An Assessment of Findings, Inconsistencies and Knowledge Gaps"
- Prof. Maureen Kilkenny, University of Nevada, "Heteromorphous Community Networks"
- Prof. Kiyoshi Kobayashi, Kyoto University, "Regional Learning and Trust Formation"
- Prof. Karen R Polenske, Massachusetts Institute of Technology, "Land Recycling and Regional Restructuring in China – A Study of Deindustrialization"
- President, Prof. Komei Sasaki, Shokei Gakuin University, "Where is Happiness?"

- Prof. Roger R. Stough, George Mason University, “”
 - Prof. Dao-Zhi, Zeng, Tohoku University, “”The Footloose Capital Model and its Applications
- これらキーノートスピーチにおいて、グローバル化と経済発展について様々な視点から取り組まれた研究が発表された。産業のグローバル化が進む中、国際間における人流、物流は質、量ともに大きく変化しつつある。交通施設整備の進展は国際間のトリップ時間を短縮させるとともに、産業の立地構造も変化させる。産業部門のアウトソーシングやフラグメンテーションが地域構造に及ぼす影響は無視できないほど大きくなっており、理論的・実証的にその影響を検証することが急務である。一方都市内における問題に目を向けてみると、都市固有の知識や実績に基づいたイノベーションが都市の進化に与える影響は年々大きくなっている。これまで主としてヨーロッパ諸国を中心として行われてきたソーシャルキャピタルに関する議論をふまえて、アジア版ソーシャルキャピタルのあり方とその都市地域政策への影響について、活発な議論がとりおこなわれた。

午後には、合計 60 件に上る発表が行われた。それらの発表は大きく分類して以下のようなテーマに基づくものである。

- Knowledge process and production,
- Knowledge and collaboration network,
- Entrepreneurship and citizen learning
- Social capital, knowledge institution, knowledge spillover, spatial econometric and regional dynamics,
- Open versus close innovation, open versus close source economy
- One-size-fits-all standard versus one-finds-own-size standard

紙面の都合上、午後の平行セッションの詳細を全て説明することは出来ないが、平行セッションが行われた各会場において、自らの研究内容により近い発表を間近に聞き、発表者間で実りのある討議が実施された。平行セッションで発表された論文の中から以下の 3 編が Best Paper, Best PhD Candidate Paper, Local Organizers Prize として選出され、懇親会の場において授与式が行われた。

- Best Paper: "Urbanization, Productivity and Innovation: Evidence from Investment in Higher Education", by Roland Andersson and Mats Wilhelmsson, Royal Institute of Technology, Sweden & John M. Quigley, University of California, Berkeley, USA.
- Best PhD Candidate Paper: "Ownership, Economic Entrenchment and Allocation of Capital" by Sameeksha Desai, George Mason University, USA and Max Planck Institute of Economics, Germany & Johan E. Eklund, Jönköping International Business School and the Royal Institute of Technology, Sweden
- Local Organizers Prize: "Knowledge and Skill for Infrastructure Technology for Survival of Economy in Global Competition", by Takayuki Ueda and Seiki Ochi, Department of Civil Engineering, University of Tokyo & Muneta Yokomatsu, Disaster Prevention Research

Institute, Kyoto University, Japan.

最後の閉会セッションにおいて、3 日間にわたる成果がとりまとめられるとともに、来年には The 12nd Uddevalla Symposium 2009 がイタリアのバリにおいて開催されることが発表された。なお、詳細なシンポジウムの模様は以下のウェブサイト

<http://www.symposium.hv.se/extra/pod/>

<http://psa2.kuciv.kyoto-u.ac.jp/joomlaJP/content/view/311/99/lang.ja/>

に掲載されている。また、別途平行セッションにおいて発表された論文をまとめて参加者に配付された USB メモリを添付する。さらに、今回のシンポジウムにおける発表論文を厳選してとりまとめる Selected Proceedings が今年中を目処に発刊される予定である。また、特に優秀な論文は基調講演者のうちの一人である Roger Stough 教授が編集委員長を務める Papers in Regional Science のスペシャルイシューとして来年を目処にとりまとめられることになっている。